

長女の医療事故をきっかけに、より良い医療の実現を目指し市民活動を続けている勝村久司さん（五九）。大事なのは、医療を専門家任せにせずに市民が主体的にチェックすることと、それを可能にする情報公開だという。現役の高校教諭でもある勝村さんが見つめる先に

民主主義だ。

九月、薬害防止のための (石原真樹)

厚生労働省に新たに設置された「医薬品等行政評価・監視委員会」はひとことで言うと、市民感覚でおかしいことはおかしいと忖度なく言える委員会です。血液製剤「フィブリノゲン」を投与された患者がC型肝炎に感染させられた薬害肝炎事件を検証した二〇一〇年の報告書に、再発防止のため第三者性のある機関が必要だと盛り込まれ、十年かかって実現しました。厚労省に都合の良い専門家ばかり選ばないよう、委員を選ぶための選考委員会まで作つたのは画期的。その選

考委員を務めました。期待される役割は、たとえば新型コロナウイルス感染症で、抗インフルエンザ薬「アビガン」がコロナに効くかや副作用がいかがよく分かっていない段階で、安倍晋三首相が備蓄拡大を表明するなど、ワクチンや治療薬がきちんと審査されないうちに政治家が勝手に発言するのはすごく危険。薬は、ひとつ間違えたらウイルス以上に怖いものになるという薬害の歴史が忘れられている。

あなたに
伝えたい
↓
もつながる。
情報を開示

情報を開示

勝村 久司

「医療情報の公開・開示を 求める市民の会」代表世話人

専門家任せダメ



真・隈崎稔樹

かつむら・ひさし 1961年、大阪府出身。京都教育大理学科天文学研究室を卒業し、大阪府立高校の理科教諭になる。90年に大阪府の枚方市民病院で出生した長女が亡くなり、枚方市を提訴。裁判の過程でカルテの改ざんや不必要な陣痛促進剤の投与などが判明、二審で逆転勝訴し確定。高校勤務を続けながら「医療情報の公開・開示

を求める市民の会」代表世話人・全国薬害被害者団体連絡協議会」副代表世話人などを務める。2005年に厚生労働省の中央社会保険医療協議会の委員となり、10年間診療明細書の全患者への無料発行を勝ち取る。著書に「ぼくの『星の王子さま』」、「医療裁判10年の記録」、共著書に「どうなる! どうする? 医療事故調査制度」ほか。

か、その都度議論すべきです。コロナも、社会がこの病気に対応していくために必要なデータは何か、行政がきちんと機能しているか市民がチェックするためにどの情報をマスコミに開示する必要があるのか。今考えるべきです。

調べると、陣痛促進剤により子宮破裂や赤ちゃんの重度の脳性まひなどが相次いだため、産婦人科医の団体は薬の添付文書に書かれている最大使用量の半分以下にすべきだと十五年以上前から産科医に警告していました。しかし妊婦や助産師には知らされておらず、添付文書は九二年まで改訂されませんでした。

裁判で、妻が言っていることは事実で、星子は死ぬ必要がなかつたんや、と証

僕の裁判を担当した石川寛俊弁護士は、当時薬害エイズ訴訟の弁護団のメンバーでもあり、弁護士会の研修会で薬害エイズ被害者の花井十伍さんと意氣投合したり。被害に遭つた血友病の人たちは若いころから病気を抱えていたからか、みんな優しくて、面白い。オタク話が多くて、ぼくも漫画や映画が好きやつたから、喫茶店やファミレスで学生のようにしゃべつていふととても楽しかった。

でも、彼らはどんどん亡

医療消費者である市民の視点で医療行政をチェックしていく必要があります。

長女を医療事故で亡くしました。

一九九〇年十一月十一日、星子は生後九日で亡くなりました。妻が不必要的に陣痛促進剤を知らない間に打たれた医療事故です。病院で妻は「陣痛が異常だ」と訴えたのに「しゃべれるからまだまだ陣痛が弱い」とさらに陣痛促進剤を打たれ、仮死状態で生まれました。

明したかった。被害を繰り返さないことが子どもからの宿題だと思い、闘うことには迷いはなかったけれど、高校教諭を続けられるか悩みました。寝られずに、家の天井を眺めながら考へているときにふと、もし子どもが生きていたら育児をした時間があるやん、と気づいた。お風呂に入れる、授業参観に行く、そういう育児にかけていたはずの時間で市民運動や裁判をやろうと気持ちを整理したら、漠然とした不安が消えました。

くなつていった。市民団体のシンポジウムで僕はよく司会をやりましたが、薬害エイズの人たちは差別や偏見を恐れて、登壇しても客席に背中を向けてしゃべる。原告番号何番です、と。血友病を抱えて、それでも明るく生きようとしていた人たちが、差別をされて、後ろを向いて被害を語る。その数日後に死んでいく。司会をしながら涙で言葉に詰まることが何度もありました。そのたびに「みんなの絶対おかしい」との思いが強まりました。

くなつていつた。市民団体のシンポジウムで僕はよく司会をやりましたが、薬害エイズの人たちは差別や偏見を恐れて、登壇しても客席に背中を向けてしゃべる。原告番号何番です、と。血友病を抱えて、それでも明るく生きようとしていた人たちが、差別をされ、後ろを向いて被害を語る。その数日後に死んでいく。司会しながら涙で言葉に詰まることが何度もありました。そのたびに「こんなのは絶対おかしい」との思いが強まりました。

個人や医療機関を特定する情報を見た上で原凶分析報告書の要約版を開してきましたが、プライバシーへの配慮を理由に、家族や医療機関が公開を嫌としたと言った場合は非公開にし始めた。家族が報告書を今後に生かしてほしいと願っても、医療機関が同意しなければ公開されなくなつた。

が判断していかなきゃいけない。それが民主主義ではないですか。

市民の側は、与えられる情報だけをうのみにしてたらあかんと思う。いやな感じやけど、不信感みたいなものが無いといけないと思います。学校で一番大事なのは批判精神を養うことなんですよ。高等学校の教育目標について書かれた学校教育法五一條に「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養う」とある。おかしいと思つても、当たり障りのないことしか言わないような大

「ぼくの『星の王子さま』の体重は百グラム単位でいいだろうとなりました。

人に育てた。ためなん
す。
僕は青春時代に忌野清志
郎にほれこんだ。ちょっと
くらい、ロックンロールし
なあかん。そう思います。
つきり見えた。

ま』へ』を読んだのは記者二年目、三重県で裁判を担当していたとき。それから何度も引っ越ししたが、ずっと手放さなかつた。コロナを機に十五年越しに著者に会えたの

惑星と恒星の違いや星の瞬きについて勝村さんのプチ授業を聞きながら、あふれるコロナ情報におぼれそうになつたら、コロナできれいになつた星空眺めようと思

は、しんどいコロナ取材を頑張つたご褒美に思えた。

惑星と恒星の違いや星の瞬きについて勝村さんのプチ授業を聞きながら、あふれるコロナ情報におぼれそうになつたら、コロナできれいになつた星空眺めようと困った。大事なことを見落とさぬように。王子さまが教えられたように「かんじんなことは、目には見えない」から。